

登録コード:MH435100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	作業療法見学実習 1年【20M以降】 Early clinical practice in Occupational Therapy		
担当教員	佐賀里 昭 保健学科作業療法学専攻教員		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/1年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	1単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	この実習において、作業療法士学生として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	作業療法的知識・技能を用いて、実習における様々な場面で活用できる。
	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	この実習における多様な課題に対して、科学的・倫理的・道徳的・創造的能力を発揮し課題に対応していく探究する姿勢が身についている。
	＜問題解決力＞保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	⇔	この実習における多様な情報を、多角的に収集・評価・分析し、関係者に伝えることができる。
	＜対人関係形成・協働力＞保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。	⇔	この実習における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、作業療法士学生として協働的に役割を担うことができる。
	＜プロフェッショナリズム＞保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	⇔	作業療法士学生としての倫理観・行動規範を身に付け、対象者の健康に向けて自律的に行動することができる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	リハビリテーション病院，精神科病院，医療型障害児入所施設，保育園，児童発達支援施設，特別支援学校，介護保険関連施設の見学を通して，地域で生活する人々の暮らしや作業遂行障害について理解を深め，作業療法士の役割について理解する。 本授業は，1年次に学んだ「作業療法概論」の知識が前提となります。本授業の内容は，これからの作業療法系実習における基礎的な知識と技術となります。 本授業は，担当教員の医療現場における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。なお，本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	8月上旬 実習オリエンテーション (担当教員全員) 8月中旬 保育園実習 (佐賀里) 〃 精神科病院実習 (田中) 〃 リハビリテーション病院実習 (務台) 9月後半 医療型障害児入所施設実習 (佐藤) 〃 児童発達支援施設・特別支援学校実習 (佐藤・岩波) 〃 介護保険関連施設実習 (上村) 〃 実習セミナー，授業アンケート (担当教員全員)		
授業の進め方	1. 実習オリエンテーションを行う。 2. 各施設において実習を行う。 3. 実習した全施設について実習レポートを提出する。 4. 実習セミナーは，全施設の実習終了後に学生全員と担当教員全員が参加して行う。 5. 施設ごとの発表担当者を決め，担当者は実習内容などを発表し全員で討論を行う。		
テキスト，教材，参考書	実習マニュアルを配布する。		
成績評価の方法	実習態度，レポート，セミナーの報告内容に基づいて総括的に成績を評価する。 1人6施設での実習を行うので， 1施設あたりの配点15点×6施設＝90点＋終了後の実習セミナー10点で評価する。 各施設の成績は，実習態度・レポートによって実習の終了後に担当教員が評価する。 セミナーの成績は，レポートの内容や討論への参加態度によって主担当教員が評価する。 「保健・医療・福祉従事者としての基本的ルールにそった行動がとれるか」，「見学した施設の概要や役割について説明できるか」，「施設の利用者の暮らしや作業遂行障害について説明できるか」，「施設の作業療法士や関連職種の役割について説明できるか」については，実習態度，レポート，セミナーにて確認する。		
成績評価の基準	実習態度，レポート，セミナーによる成績評価の判定は以下の通り		

成績評価の基準	90～100点：秀 80～89点：優 70～79点：良 60～69点：可 なお、これらの採点の基準は、セミナー・レポート中の用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、これまでの授業で説明した範囲における、最低限の説明内容であれば、「水準にある」、やや詳細な説明内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な説明内容であれば「かなり上にある」、これまでの授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な説明内容であれば「卓越している」と判定する。
事前事後学習の内容	<事前学習> 実習先の施設概要等について自己学習して実習に臨む。 各施設の予習内容の詳細は、実習マニュアルに記載し、オリエンテーションで説明する。 <事後学習> 毎回の実習終了後に、実習内容をまとめて実習レポートを提出する。 その際、疑問点や不明の点については、各自、自己学習し、その内容を実習レポートに添付する。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。授業時間40時間＋自己学習時間5時間＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	本科目は初めて対象者にふれあう実習であり，作業療法への理解を深めるとともに，医療従事者としての基本的態度を習得することを目的としています。体調の自己管理に努め，欠席や遅刻をしないこと，疑問や困ったことがあれば早めに教員に相談することを心がけて下さい。マニュアルをよく読み，準備を十分行い，体験を通して多くのことを学んで下さい。 質問への対応：佐賀里昭：sagaria@shinshu-u.ac.jp 佐藤正彬：msato1413@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 佐賀里研究室，佐藤研究室